

施策評価シート

評価年度	平成28年度	事業実施年度	平成27年度	施策主管次長名	教育部次長 鈴木 正 憲	
施策番号	57	施策名	生きがいを持って楽しく暮らせるまち		総合計画掲載頁	68
関係課名	生涯学習推進課、協働推進課、教育行政課、長寿介護課					

1. 施策の概要

施策の目的	意 図	生涯にわたり豊かな生活を過ごしてもらう	対象	市民	対象指標名	単位	H26実績	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
			①	人口	人	59,885	60,365	60,710	61,056	61,401	61,744	
			②	高齢者(65歳以上)	人	9,809	10,127	10,320	10,563	10,745	11,003	
			③									
成果指標名	①	生涯学習講座受講者										
	②	生涯学習自主活動者										
	③	生涯学習に満足している人の割合										
	④	シルバー人材センター会員数										

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
	生涯学習講座受講者	人	2,563	2,600	2,724	3,000	3,520	4,500	4,500
①	指標設定の考え方と把握方法	生きがいを持って暮らすためには、市民自らが学びたいことや楽しみたいことを生涯を通じて学習、自主活動することであり、市が開催する講座の実績や資料で把握							
指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
	生涯学習自主活動者	人	1,578	1,940	1,823	1,900	1,980	2,000	2,020
②	指標設定の考え方と把握方法	生涯を通じて学習、自主活動する個人および団体を市、教育委員会、文化協会の資料により把握							
指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
	生涯学習に満足している人の割合	人	54.9	55.5	55.2	55.6	55.7	55.8	55.9
③	指標設定の考え方と把握方法	生涯を通じて学習、自主活動することのできる環境づくりを指標として設定し「行政評価アンケート」で把握							
指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
	シルバー人材センター会員数	人	367	358	367	378	389	400	412
④	指標設定の考え方と把握方法	高齢者が、生きがいを持って経験や趣味などを生かし、社会参加することの指標として設定し長寿介護課で把握							

3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動へ参加するとともに、仲間づくりと自主活動を行う。 高齢者は、積極的に知識と経験を活用して社会参加をする。 			
	行政	市民のために魅力ある学習講座の企画・開催や地区での生涯学習活動への支援をするとともに、高齢者には、就業の場を提供する。			
達成度評価	近隣との比較	<ul style="list-style-type: none"> 「生涯学習講座受講者」の人口割合は、豊田市、刈谷市、日進市、長久手市との比較では、本市が豊田市について多く4.5%。「自主活動者」の割合は、刈谷市(23.9%)、豊田市(4.1%、H26データ)、に次ぐ3番目(3.0%)であった。 「シルバー人材センター会員数・加入率」は、西三九市及び豊明、日進市との比較で、みよし市は367人(65歳以上人口の2.86%)で高浜市(407人・3.60%)に次ぐ高い割合である。 			
	過去3年間の実績との比較	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講座受講者は、前年度比で26年度は33人若干増加し、27年度は161人の増加で、2年度続けて増加している。 生涯学習活動者は、前年度対比で26年度は336人増加、27年度は245人増加と2年続けて増加した。 生涯学習に満足している人の割合は、4年間はほぼ横ばいの状況となっている。 シルバー人材センター会員数は、就労先の増加やワークシェアリングの実施により会員数は増加傾向にある。 			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講座開催事業については、大学との包括協定に基づいた地域連携公開講座の開催をはじめ、ライフステージに合った講座を効率よく開催しているが、受講者が固定化する傾向が見られる。 生涯学習活動者については増加しているが、市外および民間で自主的に活動している人数を把握することが困難である。 「シルバー人材センター会員数」についてはワークシェアリングだけでは限界があり新たな就労先の開拓が見込めない限り会員の増加も見込めない。 				
今後の取り組みの方向性および次年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 語学やパソコンなど専門的な生涯学習講座開催事業については、民業圧迫を避け新規学習者の拡大を図るため、講座内容を見直し、初・中級までの講座とする。 生涯学習自主活動者については、引き続き文化展などの発表の場を提供するとともに、生涯学習情報などの発信を行っていく。 シルバー人材センターは就労先の開拓と、より多くの人が就労機会が得られるようにしていく。 				
	(29年度の取り組み) <ul style="list-style-type: none"> 大学との包括協定による地域連携公開講座の開催を一層充実させ新規受講者の拡大を図るとともに、図書館学習交流プラザ「サンライズ」での夜間講座の開催など勤労者を対象とした講座の拡大を図っていく。 シルバー人材センターについては、企業訪問やワンコインサービス事業等により新たな就労先の開拓を行い、ワークシェアリング等も有効活用しながら会員の増加を目指すよう支援していくとともに、就労支援センターと連携し就労情報を提供する。 				
市民意識	重要度	低い	満足度	高い	平成27年度市民アンケート調査による